

# 茅葺き民家と 石垣の里

その昔、先人たちが

新たな地を目指した山の街道

山岳武士や木地師たちが行き交い

日本史を支えた人々のドラマが眠っている



## 山の上の街道

平成17年に国の重要伝統的建造物群保存地区に選定され、二躍名前が知られるようになった「落合集落」。山肌を蛇行する道沿いに貼り付くように人家があるこの風景は、この地では珍しいものではない。その昔、山の街道は大半が尾根伝い。なぜならば、谷に近づくほど傾斜はきつくなり、岩肌も険しさを増し、危険を避けるには尾根伝いが理想だったのです。また、住むにしても上の方は日当たりが良く作物の栽培にも適していました。

その稜線伝いの道から、目的地の集落に下り、用が終わればまた上がるというふうで、その道沿いに集落が広がったのは、なんら不思議なことではありません。あまたの祖先がたどった山の道。はじめて訪れた人が「落合集落」にどこか懐かしさを感じるのは、そういう理由からでしょうか。ここに来れば、道や集落の原風景を今なお見ることが出来ます。

## 雲海の村

「落合は祖谷川と落合川が落ち合う地ということ」でこの名前が付けられました。それだけに、川霧が発生しやすく、ここでは雲海を見ることもしばしば。三所神社を境に線で引いたように、その上は雲海が漂います。この神社の社叢は、冷温帯樹と暖帯樹の巨木が自生するという珍しい樹林。徳島県の天然記念物に指定されています。

三所神社では、春祭り(旧暦の三月五日)、夏祭り(旧暦の六月八日)、秋祭り(旧暦の八月五日)が行われます。屋太鼓と呼ばれるだんじりの上では、おしろいを塗り、ひげを描き、華やかな着物を着た子どもたちが太鼓をたたきます。

